

安平町ゼロカーボンシティ推進協議会（第7回） 議事録

会議名	安平町ゼロカーボンシティ推進協議会（第7回）
日時	令和7年7月29日
出席者 (敬称略)	【委員】 • 安平町 町長 及川 秀一郎 • 安平町 副町長 田中 一省 • 安平町 教育長 井内 聖 • 安平町商工会 会長 小林 正道 • 安平地区連合自治会 会長 佐々木 弘 • 追分地区町内会連合会 会長 真保 立至 • 且見 暁 • 宮崎 晃行 【アドバイザー】 • 北海道大学大学院地球環境科学研究院 教授 山中 康裕 • 北海道地方環境事務所地域脱炭素創生室 室長補佐 桂 愛子 • 北海道地方環境事務所地域脱炭素創生室 服部 夏 • 北海道地方環境事務所地域脱炭素創生室 山本 恭輔 • 北海道電力株式会社 道央南統括支社長 吉田 耕也 • 北海道電力ネットワーク株式会社 道央南統括支社長 黒 須 僚子 【事務局】 • 安平町 税務住民課 生活環境担当課長 佐々木 智紀 • 安平町 税務住民課 ゼロカーボン推進グループ課長補佐 畠山 津与志 • 安平町 政策推進課 まちづくり担当課長 山口 崇 • 安平町 税務住民課（ゼロカーボン推進員） 岸本 佳也

	エイコーエナジオ株式会社 事業アドバイザー 高島 誠太郎 - エイコーエナジオ株式会社 事業アドバイザー 中尾 敏夫 - 株式会社 DG ネットワーク 事業アドバイザー 北野 史人
配布資料	安平町ゼロカーボンシティ推進協議会説明資料（第 7 回）

1. 開会

安平町ゼロカーボンシティ推進協議会設置要綱第 6 条第 1 項の規定に基づき、及川町長が議長となった。

事務局より 4 月 1 日付の人事異動により事務局体制が変更となったことが報告された。変更内容として、ゼロカーボン推進グループが新設され、畠山課長補佐がグループリーダーとなったこと、渡邊政策推進課長から山口まちづくり担当課長に変更になったことが報告された。

次に及川町長から挨拶が行われた。その中で、重点対策加速化事業の採択を受けたこと、東胆振 1 市 4 町で構成する苫小牧地方総合開発期成会にて、地域脱炭素推進審議官に対して 7 月 23 日に要望を行ったこと、当該要望の中では地域脱炭素移行・再エネ推進交付金に関する柔軟な運用や脱炭素化推進事業債の期限延長や措置率の引き上げや他補助金との併用の許可などが挙げられたことが紹介された。

また設置要綱に第 6 条第 2 項の規定に基づいて本会が適正に開催されたことが説明された。

2. ゼロカーボン推進に向けた直近の状況共有について（報告）

事務局より、「安平町ゼロカーボンシティ推進協議会説明資料（第 7 回）」の 1～6 ページに基づいて報告が行われ、以下の補足が行われた。

【補足】

- 北海道電力では、2025 年 3 月に安平町と包括連携協定を締結しており、ハードの推進に合わせてソフトの側面でもゼロカーボン推進のお手伝いをさせていただいている。高齢者大学での協力はその一環であった。楽しい雰囲気に参加者には 2 時間近く参加していただいた。家庭での実践や、横のつながりで取り組みが広がっていくことなどを期待している。今後とも協力していきたい。（アドバイザー）
- これまで事務局だった渡邊課長が、現在教育委員会の社会教育担当次長に異動になっており、ゼロカーボンと教育の連携も充実させていきたい。（議長）
- 広報あびらの内容に関連して、安平町には LINE を使ったスマホ役場を開設しているが、ゴミの分別については文字検索だけではなく、ゴミの写真を撮ったらその分別方法を教えてくれるシステムを用意している。外国の方に向けても AI で 80 ヶ国語に対応できる。こういった取り組みを厚真町と連携しながらスタートしている。（議長）

3. 重点対策加速化事業採択結果について

事務局より、「安平町ゼロカーボンシティ推進協議会説明資料（第 7 回）」の 7～11 ページに基づいて説明が行われ、以下の補足・意見交換・質疑応答が行われた。

【補足・意見交換・質疑応答】

- 安平公民館においては、太陽光パネルをどこに設置する予定か？公民館の屋根は傾斜がないので雪が落ちないのではないか？（委員）
 - 公共施設への最適な太陽光パネルの設置方法については、過去に環境省の補助を受けて調査を行なっている。安平公民館の場合は屋根には設置せず、駐車場に垂直型に太陽光パネルを設置する予定である。（事務局）
 - 公共施設の設置方法については、安平公民館だけではなく他の設置施設についても全て調査を行い、強度や運用面の検討をしているの

で、皆さんにはご安心いただければと思う。(議長)

- 旭陽牧場についてはどのような方法で設置を検討しているのか？(委員)
 - 現在の利用方法をそのまま活かしながら、垂直型に太陽光パネルを設置する予定である。作業ができるようにパネルとパネルの間は8m 程度の間隔を空けることを想定している。(事務局)
 - 8m 間隔というのは、採草作業を想定しているのか、それとも牛を入れて太陽光パネルを仕切りとして用いることを想定しているのか。(委員)
 - 詳細な運用内容は現在検討中である。(事務局)
 - 旭陽牧場についてはピロプラズマの問題もあり、未来永劫ずっと放牧され続けるか、牧場の扱いを含めて不確定要素が一部含まれているが、公共の場所の中では適地ではないかと考えている。(議長)
- 学校を見比べると、追分中学校は自家消費率が 11%に対し、早来学園は 44%に上っている。こういった違いはどのような要因から生じるのか？(委員)
 - 建物の強度を調べた際に、追分中学校は太陽光パネルを設置できるほどの強度を持つ屋根が少なく、設置できる枚数が少ないため自家消費率を高く計画できなかった。(事務局)

4. 今後の主なゼロカーボン関連の予定について

事務局より、「安平町ゼロカーボンシティ推進協議会説明資料(第7回)」の12～13ページに基づいて説明が行われ、以下の補足・意見交換・質疑応答が行われた。

【補足・意見交換・質疑応答】

- 9月17日と18日に定例町議会を予定しているが、現時点で補正予算として1,216万4,000円、歳入歳出同額ということで提案しようとしている。(議長)

- 町長公宅は今は使われていないが、ずっと空けておくのではなく、例えば ZEH をお試しで経験してもらうことなどに活用できるようにすることを考えている。(議長)
- 2026 年度以降に開発が予定されているスマートタウン街区というのはどのようなものか？(委員)
 - スマートタウン街区というのは定まった名称ではないが、仮設の早来中学校があった町有地に、民間のアパートの建設と 5 軒程度の戸建住宅の建設をできるような構想をしている。国の補助メニュー等も活用しながら、高気密住宅やエアコンの設置に補助・助成を出したいと考えている。こういったことをモデル的にまずは進め、他のエリアにも広げることで、一般住宅の方もゼロカーボンに協力していただけるような取り組みを進めていきたい。今年度と来年度で第三次安平町総合計画を作っていく中で、ゼロカーボンを重点項目に入れていこうと考えており、具体化させて、議会の議決をいただいて令和 9 年度から進めていきたい。(議長)
- 今年度に重点対策加速化事業に採択された 23 自治体の内、町だけで見ると 4 町しかない。年々ハードルが高くなっており、計画をしても事業がうまくいかないところがあると聞いている。安平町として事業を動かしていくことが重要となるので、皆さんの力で実現させていきたい。(議長)

5. その他

議長が委員並びにアドバイザーに意見を求めたところ、以下の意見交換・質疑応答が行われた。

【意見交換・質疑応答】

- 重点対策加速化事業の採択おめでとうございます。少し遅れて採択されたおかげで、地域電力や PPA、垂直架台といった方策が考えられ、より良い計画になっている。マイクログリッドの規模も鹿追や土幌と比べる

と大きな仕組みになっており、遅れたことによって魅力的な内容になっている。(アドバイザー)

- 採択がされる前から自治会が参加したり、会議の中で自治会から素朴な疑問が出てきたりすることはとても素敵なこと。他の自治体だと実施の説明会の段階で市民に知られるような形になってしまう。特に地産地消という話になると、反対運動になってしまって、住民が自分たちのエネルギーについて考えていくこととうまく連動できないこともある。水素や CCS や洋上風力といった規模の大きい国策系の取り組みについては、説明会に地元の人に来てくれなかったりしてギクシャクするようなこともあるが、安平町ではスムーズに決まっていることが嬉しく思う。

(アドバイザー)

- 今後は EV などを普及させて、需給のアンバランスをなくしていく必要があり、これは住民の協力ができない。その部分も教育も含めて次に考えられているということで、うまく進んでいけるのではないかなと思う。ゼロカーボンの取り組みがブランドなどに波及していくような、町が素敵になっていく中のゼロカーボンを取り入れることが本質である。(アドバイザー)
- 今回の計画は安平町の CO2 を減らす話だが、その次には購入するものを選択し、それによって世界の CO2 を減らすといったスコープ 3 の視点も入れて考えると良い。(アドバイザー)
- 採択おめでとうございます。再エネや蓄電、アグリゲーションについては北海道電力としても経験があるので、計画の実現に協力していきたい。電力の再エネ 100%達成というのは電力にフォーカスした取り組みだが、エネルギーには熱もある。熱をカーボンニュートラルにしていけるのは大きなテーマであり、今後議論していきたい。(アドバイザー)

➤ 熱についても注目していて、取り組みを進めたい。準備会を立ち上げた当初にせいこドームの通年利用という話をしたが、今でも諦めていないので、全国の事例など情報収集していきたい。(議長)

- 採択おめでとうございます。いろいろな仕組みをこれから具体的に事業計画の詳細を作っていくと思うが、そこが事業成功の鍵となるのでしっかりやっていただきたい。いきなり再エネ 100%にならないと思うが、電力の送配電事業者としての立場で協力させていただきたい。また、山中先生のお話の通り、PR がとても大事なので、ぜひ力を入れていただきたい。(アドバイザー)
- 採択おめでとうございます。重点対策加速化事業の採択ハードルが年々上がっているのは、残念ながら採択されても事業を進められない事例があることによる。安平町の場合は、これまでポテンシャル調査や地域エネルギー会社の立ち上げなどをしっかり積み重ねてきたので採択された。交付金なので年度を超えて使えないなどの制限があり、実際に進める中ではうまくいかないこともあると思うが、環境事務所としてサポートしていきたい。全国的にも限られた自治体しか採択されない事業に、安平町が採択されたということは貴重なことであり、町民にも伝えていきたい。(アドバイザー)
- 安平公民館の横で 4 機の EV スタンドが稼働していて、常時使われている。周辺住民から設置目的や充電の仕方や料金設定などを質問されることがあるので、案内をしてほしい。(委員)
 - 町が費用負担をしない形でエネチェンジに設置してもらっている。EV ステーションがきちんとあるということが普及には重要だと考えている。利用促進も重要であるので、充電の仕方の周知についても PR していきたいと思う。(議長)
 - 支払い方法については、現金は利用できず、専用のカードとスマホアプリが利用できる。料金は 1 時間あたり 330 円となっている。充電に必要な時間は EV のバッテリー容量によって変化する。(事務局)

6. 次回協議会について

事務局より、10月28日(火)10:00 から次回の協議会を開催予定であることについて説明があった。また、今回の資料は、高齢者大学についての報告など、盛り込むべき内容が直前にならないと決定しなかったため当日配布となったが、今後はできるだけ資料の事前送付を行っていきたい旨、議長から説明があった。

7. 閉会